

世の研究で2種であることが判明した場合には証拠標本がなければどちらの種を研究したのかがわからず、研究は全く無意味となる。証拠標本の保管によってのみ研究の再現性が保証されるのである。ふた昔も前、I先生からかつて日本魚学の初期の時代にT先生は植物学の人から「動物の研究は非科学的で遅れている」と批判されたとの話を伺った記憶が鮮明に蘇った。この際本音を言ってしまおう。ほんの10年前まで、国内で安心して完模式標本を登録できる博物館はなかったといってよい。まして、証拠標本を管理するなど、研究者の意図もなければその条件もない。魚類を研究材料とする分野ではやく証拠標本を保管管理する見識と体制を確立したいものである。

岩観先生は日本の植物研究室と欧米のそれとを比べて比較にならない程貧弱な人手と予算の割には日本人の研究成果があがっていることを数字を引きつづべられた。文章化されるときにはより一層肉付けされて、わかりやすい内容となると思われる。

総合討論では質問の形で単に標本を保管するだけではなく、研究に供する材料としてみたときに標本をいかに利用しやすくなるか、またどれだけ利用されたかというcuratorial taskについて発言があった。これを巡っては諸演者のなかから何人の回答や意見がよせられ、かみ合った応答がなされた。講演の中では標本がどれくらい研究に利用されているかについては述べられなかつた。研究者自身が日常的な標本管理をしなければならないという現在の余りにも貧しい研究条件の下では、標本

を保管するのが精一杯で、curatorial taskの遂行があいまいは触れたくない内容なのであろう。

さて、全体を通じての感想を述べよう。ナチュラルヒストリーの重要な一分野である分類学の衰退がいわれて久しい。分類学を発展させることなど、私にいわせればたやすいことである。研究できるポストを増やし、人と金をつければほとんど解決できる。もっとも現政府がナチュラルヒストリーに力を入れるとは考えようもないが、あとは從事する人物の見識である。かつてのスパートニクシックを想起されたい。人工衛星の打ち上げでソ連に先を越された合衆国は学校教育までも含めて全面的なテコ入れを行い月到着ではソ連に先行した。教育や研究といえども、学問の内在的法則性のみに従って発展するわけではない。今や、政府の力の入れ所と入れ加減に左右されているのは常識である。今回のシンポジウムではこの点への突っ込みが不足していたと思う。「もっと人を、もっと金を」と叫んでもよいと思う。功なり名を運びた演者諸先生ということで、表現に遺憾があったのであろう。シンポジウムの司会の方によると今回が初めてであり、今後も継続発展させていきたいとのことである。次回は助教授クラスの中堅どころから切実な話を聞きたいものである。経済大国、文化小国の日本の現状を具体的に描き出せば、諸先進国との比較からわが国の位置が自ずと明らかになる。日本には日本のナチュラルヒストリーがあって当然であるが、とりあえずは先進国を目指さなければならぬ。

(清水 長 Takeshi Shimizu)

## 会 記・Proceedings

### 1989年度第1回役員会

1989年4月24日(金)、於東京水産大学資料館2階会議室。

出席者：上野、新井、佐藤、多紀、黒沼、中村、馬場、阿部、富永、松浦、丸山、藤田。

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項。編集：36巻1号は6月中旬に発行の予定。手持ち原稿69編(20編が印刷可能)。
3. 年会の反省。ポスターセッションの発表時のスライドの使用は認めないこととする。2会場制では聞けない講演発表があるので、1会場制が可能かどうか検討する。
4. 長良川の河口堰建設の中止を求める要望書については役員会での議論を踏まえ、会長と副会長とで要望書の一部手直しをすることに決まった。

### 5. その他

#### 日本学術会議だより No. 12 (1989年2月)

昨年10月の第106回総会で設置された7つの特別委員会は会議、シンポジウム、セミナーなどを実施して、それぞれの任務に沿った具体的な審議課題や今後の審議計画等について熱心に審議を進めている。このほかに「人間の科学特別委員会(仮称)」が追加設置される予定で、現在、検討会において問題点の整理が行われている。

#### 日本学術会議だより No. 13 (1989年5月)

日本学術会議は1989年4月19日から21日まで第107回総会(第14期・第3回)を開催した。本総会では「大学等における学術研究の推進について—研究設備

## 会 記

等の高度化に関する緊急提言—(勧告)—が採択された。これは第14期になって採択された初めての勧告で、直ちに内閣総理大臣に提出された。また、第14期活動計画の中で具体的審議課題の一つとして掲げられている「人間の科学」について自由討議が行われた。これに先立って、「人間の科学特別委員会」の設置が決定され、委員が選出された。

会員異動 (1988.12.1.-1989.5.31)

[REDACTED]

[REDACTED]

本会評議員片山正夫博士は 1989 年 8 月 19 日逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

日本魚類学会

We regret to announce that Dr. Masao Katayama, councilor of the Society, died on August 19, 1989.

The Ichthyological Society of Japan